

第 3 回 高遠町地域協議会会議録

開 催 日	令和7年9月30日（火）					
開 催 時 間	開 会	午後6時30分			閉 会	午後8時00分
開 催 場 所	高遠町総合支所会議室					
委員の出欠 出席 17 名 欠席 3 名	番号	委員氏名	出欠	番号	委員氏名	出欠
	1	伊藤 茂		11	澤 広行	欠
	2	西村 則義		12	山崎 恭子	
	3	北原 直		13	伊藤 幸子	
	4	北原 康弘		14	岡部 功治	
	5	藤澤 尚弘	欠	15	伊藤 俊成	
	6	西村 博		16	伊東 基博	
	7	伊藤 彩		17	井出 順徳	
	8	西野 かおる				
	9	赤羽 幸子	欠			
	10	北原 誠				
署 名 委 員	15 番	伊藤 俊成		16 番	伊東 基博	
委 員 以 外 の 出 席 者 出席 9 名	高遠町総合支所長 清水 俊一郎、同総務課長 山下 隆、 同総務課長補佐（総務係長） 北原 善昭 危機管理課管理監 埋橋 進、同防災係長 伊藤 尚樹、 生活環境課長 金子 勝勇、同環境衛生係長 根津 高史 伊那市議会議員 宮原英幸、伊藤のり子議員					
会 議 事 項	報告事項 （１）コンテナトイレの設置について（塩供公衆トイレ） （２）入笠牧場の閉鎖について 協議事項 （１）第40回（令和8年度）伊澤修二記念音楽祭について （２）その他 委員提案について （１）スクールバスの現状（立ち乗り）と改善点について （２）いつでもだれでも愉しめるご城下通りの実現 （３）環屋の活用について					
会議提出資料	1 コンテナトイレの設置について（塩供公衆トイレ） 2 入笠牧場の閉鎖について 3 第40回（令和8年度）伊澤修二記念音楽祭について 4 スクールバスの現状（立ち乗り）と改善点について 5 いつでもだれでも愉しめるご城下通りの実現 6 環屋の活用について					【資料 1】 【資料 2】 【資料 3】 【資料 4】 【資料 5】 【資料 6】

進行 北原副会長

1 開会（午後 6 時 30 分） 北原副会長

2 あいさつ 西村会長／清水高遠町総合支所長

- ・欠席委員の報告 5 番 藤澤 尚弘 委員、9 番 赤羽 幸子 委員
- ・会議録署名委員 15 番 伊藤 俊成 委員、16 番 伊東基博 委員

3 報告事項 進行 西村会長

（１）コンテナトイレの設置について（塩供公衆トイレ）

【説明：生活環境課 根津係長】

塩供公衆トイレは、現地の地盤の影響により、床や便器が傾いていることから、昨年度、建て替えに向けた実施設計を行い、令和 8 年度に建て替えを予定していた。

この件は、昨年度に長藤区長に説明させていただいたが、建て替えに要する費用が高額となる中で、有利な財源を充てることができ、また、災害時にも役立つコンテナトイレを採用することとした。

地元からは、塩供公衆トイレが無くなってしまうのではないかと心配の声が上がっていたが、このたびのコンテナトイレがこれに代わるものである。

現行のトイレは、コンテナトイレ設置後に取り壊しができるように財源を検討している。今後とも公衆トイレとして地元の皆さんに協力いただきながら、適切に管理していく。

【説明：危機管理課 伊藤係長】

コンテナトイレは、平時の際には商用電源から電気を取って、上下水道に接続して普通の水洗トイレとして使用するが、災害時に上下水道と電気が使えなかった際には、太陽光発電で発電した電気を使いつつ、コンテナトイレの中には流した汚水を浄化するユニットを備えているため、排水を流すことなくトイレ内の水を循環させることにより、水洗を維持するシステとなっている。

仮に伊那市が被災して、上下水道が使えない場合は、薬剤の投入や切り替えの手間は必要になるが、防災トイレとして利用することが可能となる。

クレーンで吊るして、トラックに載せて移動することも可能となっている。コンテナトイレの中の設備は、女性用トイレには洋式便器がひとつ、中央部には汚水を浄化する処理ユニットや太陽光発電のパワコン、蓄電池が収まっている。

右側の一番広いスペースは、多目的トイレとなり、洋式便器、男性用便器がそれぞれひとつ設置される。外部には、車イスに対応するスロープが設置される。

コンテナトイレの配置予定箇所は、既存のトイレの東側（国道側）を予定しているが、今現在、既存トイレの入り口部分にある花壇を一部取り壊して、西側に寄せて建てることができないか検討している。

コンテナトイレの外壁は、地元からの要望として、落ち着いた色合いの希望が寄せられているため、色味についても検討することとしている。

（議員）トイレの入口の向きは道路側になるのか。ドアを開けたときにトイレの中が見えてしまうのはいかがか。

（危機管理課係長）犯罪などにも配慮するご時世のため、見通しの良い道路側に入口を設置する予定としている。

（２）入笠牧場の閉鎖について【説明：高遠農林建設課 細田課長】

入笠牧場は、これまで J A 上伊那が運営してきたが、近年は放牧頭数が 50 頭程度にまで減少するなど、経営困難を理由に令和 6 年度をもって閉鎖されることとなった。

今後は、牧場用に設置された柵の撤去等の対応について方向を検討するほか、牧場用地の 305ha のうち、J A 上伊那に貸し出している市有地 140ha 余が返還されるため、関係する部局（農政課、

高遠商工観光課、高遠農林建設課など）において跡地利用の検討を進めている。

（会長）牧場用地の跡地利用の検討では、具体的な方向性は出されているか。

（高遠農林建設課長）まだ検討に入ったばかりの段階ではあるが、映画等の撮影地やキャンプ場としても活用されてきていることから、引き続きそういった活用を含め、まずは景観を荒らさない形での検討を進めていきたい。

（会長）入笠は、高遠町の観光資源のポイントになる場所である。三義地区と入笠を結んだ観光振興といった話題も上がる中で、そのような内容を含めながら跡地利用を考えていただきたい。

4 協議事項 進行 西村会長

（1）第40回（令和8年度）伊澤修二記念音楽祭について 【説明：高遠総務課 山下課長】

地域協議会委員にご協力いただいた来年の伊澤修二音楽祭に向けた第一部の実施会場についてのアンケートの結果がまとまったため、報告させていただく。

まず、Aの「第一部 高遠町文化体育館で実施（第二部 県伊那文化会館大ホール）」が5名、Bの「第一部 県伊那文化会館小ホールで実施（第二部 県伊那文化会館大ホール）」が6名、Cの「どちらでもよい」が4名という結果となった。

Aを選択した方の意見の中には、「高遠出身だから始まった音楽祭」、「高遠でやってこそ意味がある音楽祭」、「原点の高遠を忘れることなく高遠で実施できることにこだわりを持ちたい。」、「高遠町民としては大分譲歩した現行の形が望ましいと思う。」などの意見が寄せられていた。

Bの意見では、「高遠の小中学校生の人数も減少し、このままでは音楽祭の体裁も小規模にならざるを得ず、伊那市全域での開催規模が望ましい。」、「ステージ回り（音響、照明等）や観覧席の設備を考えると、音楽祭は第一部、第二部ともに県伊那文化会館での開催が望ましい。」、「開催地が高遠町から離れ遠隔になるだけで、寂しさを覚えるのも事実。音楽祭の名称の工夫等々、何らかの意義を高遠町に留めていただく配慮を願いたい。」などの意見が寄せられた。

Cの意見では、「伊澤修二記念音楽祭の主役は誰なのか。また、鑑賞対象者は誰なのか。何を大切にしたい音楽祭なのか。地域で考える必要があると思う。」、「音楽祭に関わる高遠町の関係者（保護者・教職員・生徒児童）にアンケートをとってほしい。」などの意見が寄せられた。

以上が高遠町地域協議会委員の意見集約となるが、このほかにも意見や要望があれば本資料に追加をし、来る10月9日に開催される実行委員会の資料として生涯学習課に提出する。

また、生涯学習課において、第1部・第2部両方を県伊那文化会館大ホールで開催した場合について検討が行われたが、東京藝大では、演奏前のリハーサルは大ホールで3時間を確保する必要があるため、同日に第1部・第2部を大ホールで開催する案は難しいという結果となったことを報告させていただく。

（委員）音楽祭の名称は子供たちにアンケートを取ったようだが、事務局の説明では、伊澤修二音楽祭を大切にしつつ、東京藝大との関りが分かるような名称を考えているとのことだが、松本市のように「サイトウ・キネン」から「セイジ・オザワ」のように名称が変わってしまうのか、婦人会員から確認してほしいと言われている。

（会長）皆さんからのアンケートを参考にして、これから名称変更の検討に入ると聞いている。

（委員）伊澤修二音楽祭の名称は残してほしいといった要望があったことをお伝えする。

（委員）音楽祭のアンケートを高遠北小学校児童に対し行うことが可能であることを学校側に確認したところ、第一部を文化会館で実施する案は、既に東京藝大が却下したとの報告を受けたがどうなっているか。

（会長）まだ決定事項ではなく、10月9日に開催される実行委員会において協議されることになっている。実行委員会において、意見集約が不十分と判断されれば、今後、関係者に対しアンケート

を取ることは十分考えられる。

(委員) 是非、音楽祭に関わる人たちからアンケートをとってほしい。

(会長) 頂いた意見を資料に追加して、実行委員会では強調して伝えていく。

(2) その他

特になし

5 委員提案について 進行 西村会長

(1) スクールバスの現状(立ち乗り)と改善策について 【説明：高遠総務課 山下課長】

前回(第2回)の地域協議会のときに委員から提案をいただいたスクールバスの立ち乗りの現状についての調査結果がまとまったので報告させていただく。

調査日は令和7年7月3日(木)で、調査日において立ち乗りの状況が確認できたこと、乗車する児童生徒の名簿から、人数の把握ができることから、調査は1日とさせていただいた。

車内の様子は、竹の上バス停で全ての座席が埋まり、中学生が全員座席を立つ状況で、中学校前で中学生が降車した後も、6年生が立ち乗りとなる状況であった。

乗車児童・生徒名簿によると、高遠北小学校前までに最大で37人が乗車し、その内小規模特認校児童の利用者は9人。小規模特認校の児童は、保護者の送迎を基本とするが、バスの定員に余裕があれば、無償でバスを利用することが認められている。また、その際は立ち乗りになる可能性があることや、年度途中でも乗車できなくなることがある旨を説明し、了解をいただいている。なお、バスの定員は、立ち乗りも含めて57人となっている。

各バス停で、上級生が乗車人数を確認し、席が不足する区間は、中学生が席を立ち、小学生が座れるように促す姿が見られた。

山間部を走行する事ができる大きさで、利用者全員が座れる座席数のある車両は、市内のバス会社が所有していないため、車両の変更は難しい状況。

令和4年度には運行会社に確認し、立ち乗りとなることも含めて、運行上安全性に問題ない旨の回答をいただき、学校にも理解をいただいている。今後もバス運行会社には、安全な運行の継続を求めている。以上、学校教育課からの調査結果の報告とさせていただきます。

(委員) 対応についての中で、「学校にも理解いただいている」とあるが、この件は学校側から上がってきたものであり、子供たちに立ち乗りがないようにとのことで要望があったもの。立ち乗りが無くなることで学校の先生も保護者も運転手の方も安心できるのではないか。現状は理解できたので学校と共有させていただく。

(会長) どの段階で協議がされたのか定かではないが、例えば年度初めに教職員の皆さん、PTAの皆さんなど関係される方への申し送りを行うことが必要と感じる。

時代によって価値観は変わる。安全に対する考え方も変わってくる。申し合わせがあったとしても、見直しが必要であれば当然再協議を行うべきである。

(委員) 第2・第3保育園では、毎年、年度初めに園児を乗せる送迎車の会議を行っている。運転手、保護者、保育士の3者で送迎車の安全に係る運行方法の確認を毎年必ず行っている。それを小学校でも行ってはどうか。学校、保護者、バス会社、市の関係部署の4社で確認を行い、上がった意見を毎年申し送りしていくことできないかを学校側に提案してみたい。

(2) いつでもだれでも愉しめるご城下通りの実現 【提案：委員】

年々高遠の商店街は寂しくなっていると感じる。空き店舗も増えてきているほか、高遠は桜の時期以外は観光客も少ない。

高遠は城下町であり、ご城下通りが観光地になるような活性化に向けた取り組みが何かできないかと思い、提案させていただいた。ご城下通りが寂れると子供たちの世代に残すことができなくな

る。

提案の一つ目が「テナントの誘致」で、空き店舗などの物件を借りたい、貸したいをマッチングしてはどうか。

二つ目が「高遠町の歴史や文化を感じられる街づくり」ということで、お城の歴史以外にも城下町で暮らしていた方たちの歴史を紹介するなど、高遠の魅力を発信できるような取り組みはできないか。

三つ目は「国道 361 号の速度抑制」で、国道である以上、難しいと思うが、交通量が多く、車両の速度も早いため、歩道を歩く子供たちが危険に感じることがある。速度を抑制すれば、歩行者が城下町をゆっくりと散策できるのではないか。

(回答：高遠商工観光課長)

①空き店舗については、伊那市公式HPにおいて「空き店舗バンク」を開設して紹介し、マッチングも行っている。また、空き家の活用については、不動産屋や空き家バンクで斡旋を行っている。魅力ある空き家は比較的すぐに買い手も見つかる。

空き店舗については、家屋自体が空き家であれば活用できるものの、店舗部分のみ空いていても居住者がいる家屋も多く、店舗部分は玄関を兼ねていたり、トイレが無いなど後利用のハードルが高いのが現状である。活用方法を工夫しながらマッチング可能な物件があれば斡旋していく。

②地域おこし協力隊や観光協会がスタンプラリーや謎解きイベントを開催し、観光客が街歩きをしている機会が増えている。そうしたことをきっかけにしつつ、既存の観光資源のPRにもより注力していきたいと考えている。

(回答：高遠農林建設課長)

③国道 361 号の高遠市街地付近は法定速度が時速 40km に設定されている。この法定速度を変更することは公安委員会の権限となるため、幹線道路である国道として、また国道の規格からも、法定速度を変更することは困難である。

国道 361 号を管理する伊那建設事務所の街路事業において、景観の向上や歩行者の安全に配慮した無電柱化事業が昨年完了したところであり、速度を抑制させるための方策の例として、看板や路面標示等も考えられるが、景観への配慮が必要であり、設置には十分な検討が必要。

まずは歩行者の安全に配慮し、のんびり散策しやすい環境の整備について、必要に応じて管理する伊那建設事務所に要望していく。

(委員) ご城下通りは無電柱化されて景観がほかの地域と比べて優れた町並みであるため勿体ないという気持ちもあって今回提案させていただいた。また、活性化に繋がる取り組みを続けていただきたい。

(3) 環屋の活用について 【提案：委員】

旧中村家住宅は、我々の税金をつぎ込んで改修した施設であるが、現在はほとんど使用されていない。税金の無駄遣いにならないように活用について考えていただきたい。

(回答：高遠商工観光課長)

旧中村家住宅は所有者から市に寄贈された建物で、市において活用方法の検討した経緯がある。改修するにあたり、地方創生拠点整備交付金という国の有利な財源を充てながら、改修経費として1億2,300万円余をかけて整備を行ってきた。財源の内訳は、国の交付金が6,000万円余、このほか、合併特例債等として4,800万円余を充てている。伊那市の単独経費は約1,500万円となっている。

改修後の平成 31 年度からは、指定管理者制度による施設管理者を置き、チャレンジショップや様々な方にお試しの出店をしてもらいながら、市内での新たな起業に繋げる取り組みや観光案内所としての機能も備えながら、有効活用に努めてきた。

その後、新型コロナウイルスの影響により、飲食経営が困難となり、指定管理者による管理や運営も厳しくなる中で、今年度からは、当面の間、市の直営により管理していくこととなった。

現在は、飲食経営は行っていないものの、市が任用する地域おこし協力隊による施設管理であったり、活動の場であったり、旧中村家住宅を活用した高遠町の活性化に向けた取り組みについて、企画を検討している。また、夏休みの期間などは無料開放日を設けて、多くの子供たちにも利用いただけるような取り組みを行っている。

また、貸館として利用ができるように、条例の改正も行ったところであり、活用の幅を広げながら、高遠の観光振興に繋げていきたい。

提案の中にある宿泊としての活用については、この施設整備にあたり、まず地元である諸町と整備後の運用について協議を重ねた経過があり、その中で、宿泊及び夜間の利用については行わないとの約束をしているため、現時点では難しい状況となっている。

（委員）財源の国庫補助金はどこの省庁の事業か。また、その他の財源は何を充てているか。

（高遠商工観光課長）国庫補助は内閣府の地方創生拠点整備交付金事業を充てている。また、その他の財源は、合併特例債という起債を充てている。

（委員）1億2,300万円も投資して、施設がほとんど活用されていないのは納得がいかない。この改修費用の多くは何に使っているのか。

（高遠商工観光課長）老朽化した古民家であったことから、利用できるまでにするには耐震補強も必要であったことから多額の改修費用が生じた。

（委員）1億2,300万円の費用の内訳を確認することは可能か。

（高遠商工観光課長）開示請求の手続きを踏んでいただければ可能である。

（会長）有効活用について考えていただきたいが、改修費用の内訳は地域協議会には公表しなくてよい。委員個人として対応されたい。

（高遠町総合支所支所長）高遠町は空き家が増え、シャッターが閉まっている商店も目立ってきているが、空き店舗は住居を兼ねているところが活用のハードルを上げている原因であり、行政としても踏み込むことのできない課題と捉えている。

近隣では、以前はシャッター商店街であった辰野町が再生に成功している。若者たちが中心となって再生に取り組んでいるもので、行政が主導したものではなく、「トビチカンパニー」という民間が主導して地域を活性化するために頑張り、そこに人が集まり大きな輪ができて町が再生していくといった流れが生まれている。

行政主導では、賑わいは一時的なもので長続きはしない。民間による柔軟な発想と行動力こそが地域活性化に繋がっていくと感じている。意欲のある方がいれば、協議会委員の皆さんのお力添えをいただき、また、市にもお繋ぎいただきたい。

地域資源の発掘も大切であり、例えば高遠石工の石仏は、「高遠石工研究センター」の協力をいただき、灯籠祭りのときには建福寺のライトアップを行っている。地元の方もライトアップの存在を知らない方が多く、実際目にした方は、こんな素晴らしいものがあつたのかと驚く方が多い。

旧中村家住宅をゲストハウスにしてはどうかといった提案もあったが、ゲストハウスは竹松旅館隣の古民家を改修し、一昨年前から開業を始めている。様々な情報を自分の目で見て足で歩き、得ていただくことも大切と考える。そうやって得た情報を委員の皆さんも一緒になって発信していただくと更に地域の活性化に結び付いていく。

行政も地域活性化に向けて取り組んでいくが、地域の皆さんも一緒になってより良い町づくりに繋げていただきたいと思います。

6 その他

特になし

7 次回日程について 【説明：高遠総務課 山下課長】

委員提案事項提出期限 10 月 31 日（金）

次回開催は未定

8 閉会（午後 8 時） 北原副会長